



昆虫の力を利用して みんなに喜ばれる果実づくり



花に昆虫が訪れる風景は、春の季節を感じる一つです。野山では、蝶や蜂など虫が元気に飛びまわっています。虫達によって花が授粉する植物がサクラをはじめたくさんあります。

交配作業の省力に一役

露地イチゴは、春4月に花が咲き、5月に赤い実となります。イチゴ農家のハウス栽培では、11月から収穫が始まりますが、これには、訪花昆虫が欠かせません。ミツバチを利用して、形の良い果実をつくってきました。これは、農業での使われ方で、よく知られていて欠かせない栽培技術です。

この他に、ミツバチは、農業の中でメロン、すいか、カボチャへの利用が増えています。それは、これらの交配は、雌花、雄花があり、手で交配をしなればならない手間と時間のかかる作業だからです。この交配作業の省力のために花から花へ飛び回るミツバチを利用しての交配作業がおよそ十年前より先進地で始まりました。栽培農家で

ミツバチ交配が広がりました。最近では、蜜のないトマトやナスの交配にマルハナバチ利用の取り組みが始められています。



安全な食品に気配り

昆虫を利用し、薬剤散布が変わりました。農薬の分解が早いものを使用し、使用回数も少なくなるような栽培にし、より安全な果実づくりに取り組んでいます。

ミツバチはおとなしい性格

おとなしいハチではありませんが、ミツバチにたいしては、巣箱に刺激を与えないようにし、黒い色に敏感に反応しますので黒い服装を避け、また、近づいたハチを振り払わないように注意してください。

(野菜科 椎名)

※ 問い合わせは、普及センター 松尾駐在(86-4121-2)へ。

文芸

俳句

宮島や鹿の寄り来る夕時雨 福田 幸子

植木屋の刈り残しけり枇杷の花 藤代 ゆう

ゆく年や瘦軀はげますばかりなる 今関 茂生

喜々として木の実を拾ふ子等散れり 玉虫 たけし

行く年や明日の生きさま自問して 福田 晴一

時雨る、や昼を灯してビルの窓 土屋 栗水

時雨る、や野積のぼち黒々と 戸村 静華

行く年の悔いたる事も多々ありて 若梅 あやめ

名の知らぬ小花の黄色浜時雨 小林 順子

時雨る、や海にかたむく海女の墓 選者 山口一秋

短歌

細枝を張りめぐらせし葡萄園季の 憩ひと静まりてあつ 佐瀬 初音

今回の吾が師の受賞一ばんに喜び まさむに康文師亡し 吉岡 信子

葉の折れし青葱の円筒の切り口より 噴き出てゐたり甘美なる蜜 鈴木 やす

散步する総野に朝日射しそめて行 手に大きな虹のたちきぬ 秋葉 悦子

カルタ取る度に小学生の拍手受け 老人ホームの老いは笑へり 池田 春江

選びるクレヨンの中に忘れなぐ さ色と名づけられしを手に取りあ たり 西山 満里子

買い手待ちペットルームの箱の中 に動かぬ兎を旅先に見つ 押尾 輝子

つきぬきの水ふんわりと盛り上り 鼓動なすがに噴き出てゐたり 宇井 ちい

冬庭をひとり占めする葉牡丹に折々 小鳥の影落しゆく 萩原 信一

この地より丸木船出でし栗山川し ばし古代に思ひ馳せあつ 土屋 栗水

冬木なる柿に入り日の射せる中雀 しき鳴く春を呼ぶがに 永藤 滋

二十歳を一期に逝けり耕平君為し たきことをあまた残して 選者 斎藤つね子

